

# [西尾の歴史年表]

		2300年前	1700年前	1400年前	1300年前		
		原始			古代		
時代	旧石器	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	
年代				六四五以降	七〇二 七〇〇ごろ	七六七 七二三 七一〇	
事柄	<p>釜田貝塚・八王子貝塚・枯木宮貝塚</p> <p>碧海台地や東部丘陵に縄文時代の遺跡が分布する</p> <p>旧石器が発見されており、市内でも旧石器時代、人が居住していたことがわかる</p>		<p>岡山丘陵に中根山遺跡が造られる</p> <p>松崎八反田・熊子山遺跡、岡島遺跡</p> <p>稲作の開始により、低地にもむらができる</p>	<p>正法寺古墳、岩場古墳、中之郷古墳、西山古墳などが5世紀ごろ造られる</p> <p>古墳が造られはじめる</p> <p>吉良八幡山古墳、五砂山古墳</p>	<p>熊来郷に属する集落遺跡が形成される</p> <p>矢田の地名はこのころより使われる</p> <p>御(三)河の国と穂の国を一つに合わせて三河国ができる</p> <p>山の神塚古墳、西川原古墳が7世紀に造られる</p> <p>羽角山古墳群に6世紀後半から7世紀にかけて一〇〇墓以上の古墳が造られる</p> <p>とうてい山古墳が6世紀後半に造られる</p>	<p>建稲種命を祭る幡頭神社が宮崎に創建されたといわれる</p> <p>久麻久神社が創建されたといわれる</p> <p>八ツ面山北部遺跡・志貴野遺跡・志籠谷遺跡</p> <p>熊来郷に属する集落遺跡が形成される</p> <p>矢田の地名はこのころより使われる</p> <p>御(三)河の国と穂の国を一つに合わせて三河国ができる</p> <p>山の神塚古墳、西川原古墳が7世紀に造られる</p> <p>羽角山古墳群に6世紀後半から7世紀にかけて一〇〇墓以上の古墳が造られる</p> <p>とうてい山古墳が6世紀後半に造られる</p>	<p>『続日本紀』に「大和参河をして並びに雲母を献らしむ」とある</p> <p>熊来郷から都へ米を貢納する</p>
				大化の改新		平城京ができる	

	1200年前	900年前	800年前	700年前	600年前	500年前		400年前	300年前	200年前																															
古代	中世						近世																																		
平安	鎌倉			室町				安土・桃山		江戸																															
七九四	八一〇以降	七九九	一一五九	一一九二	一二二一	一二七一	一三三一	一三三八	一三三九	一三四七	一三六二	一四六一	一四六七	一五七三	一五七九	一五八二	一五八三	一五八五	一五九〇	一六〇〇	一六〇三	一六〇五	一六三七	一六四四	一六四六	一六四九	一六五七	一六七〇	一六七八	一六八六	一六八八	一七〇一	一七〇二	一七〇六	一七一六	一七六四	一七八七	一七九八	一八四一	一八五三	
崑崙人が福地（現在の天竹町）に流れ着き、綿の種子を伝えたといわれる	蓮光寺が建立される	吉良荘の名称が文献に初めて登場する	吉良荘の名称が文献に初めて登場する	足利義氏が三河国の守護となる	足利（吉良）満氏が願成寺を建立したといわれる	足利（吉良）満氏が実相寺を建立する	足利義氏が西条城を造ったといわれる	足利義氏が三河国の守護となる	吉良満貞たちが実相寺の釈迦三尊像を造らせる	願成寺の宝冠釈迦如来像ができる	饗庭七郷をはじめとし新田開発が行われる	養寿寺が彰空宗永によって再興される	小笠原長重によって安泰寺が創建される	伊文神社本殿や久麻久神社本殿が再建される	大河内信貞が寺津八幡宮の社殿と金剛院を再建する	『今川義元書状』に「西尾之御事」「西尾城」の記載がある	このころ織田信長との戦いの兵火で実相寺が焼失	藤波畷の戦い、吉良氏が松平氏に敗れる	三河一向一揆がほろぶ	三河一向一揆に乗り吉良義昭も戦い、吉良氏がほろぶ	三河一向一揆がおこり、松平（徳川）家康が一揆側と戦う	家康の嫡男信康が大浜に追放される。家康が西尾で陣を張る	西尾城の改築。このころ徳川家康がたびたび西尾に来る	乙川の正法寺に塩田が寄進される	地続きであった藤井く米津を開削し、現在の矢作川の流路となる	藩主太田資宗によって外堀の工事が始まる	矢作川の米津から鷲塚に堤防が築かれる	西尾藩が治水と新田開発のため、弓取川をふさぐ	藩主井伊直之（直好）により総構えを完成させる	近江より鋳物師の太田氏がきて、平坂に鋳物業がおこる	矢作川の河口に多くの新田が造られるようになる	藩校文礼館が土井氏によって造られる	吉良義央が富好新田を開拓する	吉良義央によって黄金堤が築かれたとされる	大名行列についての記録がある	大給松平氏が藩主となり、版籍奉還まで続く	吉良義周が配流先の信州諏訪で死去。三河吉良氏嫡流断絶	吉良義央が赤穂浪人に襲撃され殺される	一色に赤羽別院親宣寺が建立される	西尾藩の学問所が修道館と改められる	西尾藩の学問所が造られる（現在の鶴ヶ崎町あたり）
平安京ができる	源頼朝が征夷大將軍になる	承久の乱	源頼朝が征夷大將軍になる	足利尊氏が征夷大將軍になる	応仁の乱（一四六七）	桶狭間の戦い	室町幕府がほろびる	本能寺の変	賤ヶ谷の戦い	関ヶ原の戦い	豊臣秀吉全国統一	徳川家康が征夷大將軍になる	島原・天草一揆	百姓の生活心得	寛政の改革	享保の改革	松の廊下刃傷事件	天保の改革																							

200年前		今から100年前												
近世			近代							現代				
時代	江戸	明治 (1868 ~)						大正 (1912 ~)		昭和 (1926 ~)				
年代	一八五八 一八五九 一八六〇 一八六七	一八六八 一八六九 一八七一 一八七二 一八七四 一八七六 一八七九	一八八二 一八八三 一八八四 一八九四	一九〇四 一九〇八 一九一〇 一九一四 一九一五	一九一八 一九一九	一九二六 一九二八	一九三三 一九二八	一九三六 一九三七	一九四一 一九四五 一九五三	一九五四 一九五五 一九五九	一九六〇 一九六三 一九六五	一九七一 一九七三 一九七四 一九七七		
事柄	伊文神社の義倉蔵が完成する 『寺津村絵図』が作成される この後、松平乗秩が藩主となる 桜田門外の変で井伊大老が暗殺され、乗全も失脚する 藩主松平乗全が大老井伊直弼のもとで老中となる	鳥羽伏見の戦い後、西尾藩は勤皇(倒幕)方となる 西尾藩が西尾県となり、さらに額田県と合併される 藩主松平乗秩が版籍を奉還し、西尾藩知事になる 大浜騒動がおきる 足立順道が宇治より茶の種子を持ち帰り、上町で栽培する 西尾城が廃城となる 米津橋が初めて架けられる 中畑船紡績がはじまる 板垣退助が康全寺で大演説会を開く 私立英語学校を太田松次郎と杉浦善七、鳥山利平らが設立する 一色町坂田新田に国内初の水産試験場が設立される うなぎの養殖が始まる	西尾鉄道が初代西尾駅から岡崎新駅を結ぶ鉄道として開通する 岩瀬弥助が岩瀬文庫を開設する 剣の式剣道大会が始まる	西尾鉄道が初代西尾駅から岡崎新駅を結ぶ鉄道として開通する 西尾鉄道が西尾〜平坂の港前に延長される(平坂線) 北浜悪水路が完成する 西尾鉄道が西尾〜吉良吉田間に延長される(吉田線)	西尾鉄道が初代西尾駅から岡崎新駅を結ぶ鉄道として開通する 西尾鉄道が西尾〜吉良吉田間に延長される(吉田線) 義倉で応急の米の安売りをし、米騒動を乗り切る 愛知県立蚕糸学校が開校する(現在の鶴城丘高等学校) 愛知県立西尾中学校が造られる(現在の西尾高等学校)	三河鉄道の碧南〜三河吉田間が開通する 西尾鉄道は愛知電気鉄道と合併する 碧海電鉄西尾〜今村間が開通する 西尾駅が現在地に移転する 中畑の船紡績が幕を閉じる 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される 三河鉄道の三河鳥羽〜蒲郡間が開通する 尾崎士郎の『人生劇場』が都新聞に掲載される	西尾市資料館が開館する 愛知こどもの国が開園する 市制二〇周年を迎え、八万都市になる 吉良町の塩田が廃止される 市の木に「くすの木」が選定される 西尾市の市章及び愛市憲章ができる 一色町に養鰻水道がひかれる 市制一〇周年で、「西尾市民の歌」と市の花「ばら」が選定される 西尾鉄道の平坂線が廃止される 伊勢湾台風により多大の被害を被る。災害激甚地に指定される 金蓮寺弥陀堂が国宝に指定される 三和村・明治村の一部(米津・南中根)が西尾市に編入される 平坂町・寺津町・福地村・室場村が西尾市に編入される 西尾市が市制を施行する(県下14番目) 台風13号により、大きな被害を受ける 三河地震により、多数の死者と多大の被害を被る 戦時教育が行われる	
事柄	日米修好通商条約調印 安政の大獄	明治維新 大政奉還 学制公布 廃藩置県 民撰議院設立の建白書	日清戦争 日露戦争	第一次世界大戦 第一次護憲運動	ボツダム宣言・戦争終結 太平洋戦争 日中戦争									

現代	
昭和(1926～)	平成(1989～)
<p>一九八〇 一九八二 一九八三 一九八六 一九八八</p> <p>西尾市文化会館が完成する 吉良町歴史民俗資料館が開館する 市制三〇周年を迎え、九万都市になる 幡豆町歴史民俗資料館が開館する</p>	<p>一九八八 一九八九 一九九二 一九九三 一九九四 一九九五</p> <p>西尾市民病院が熊味町に移転新築する 一色学びの館が開館する</p>
<p>一九八〇 一九八二 一九八三 一九八六 一九八八</p> <p>西尾市文化会館が完成する 吉良町歴史民俗資料館が開館する 市制三〇周年を迎え、九万都市になる 幡豆町歴史民俗資料館が開館する</p>	<p>二〇〇一 二〇〇三 二〇〇六 二〇〇八</p> <p>佐久島で「アートによる島おこし」が始まる 市制五〇周年を迎える 岩瀬文庫が日本初の「古書」の博物館としてリニューアルする 「まちなか一万人西尾大茶会」が行われ、ギネスに登録される 六万石くるりんバスがはじまる</p>
<p>二〇〇九 二〇一〇 二〇一一 二〇一二 二〇一三</p> <p>西尾市中央体育館が完成する 西尾市と幡豆郡三町が合併し、新西尾市となる 「西尾の抹茶」が地域ブランドになる 岩瀬文庫が創立一〇〇周年となる 西尾市役所新庁舎ができる</p>	<p>二〇一三 二〇一六 二〇二一</p> <p>市制六〇周年を迎える 山形県米沢市と友好都市提携をする 塩田体験館「吉良饗庭塩の里」が開館する 吉良氏八〇〇年祭。西尾市と幡豆郡三町が合併し、一〇周年を迎える</p>
	<p>東日本大震災</p>
	<p>阪神淡路大震災</p>